

2026
令和8年1月23日
第31号
(通算190号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!



1 連携で有為な人材育成へ



調印後の記念写真



調印式前の打ち合わせ

本校への長年の入学実績を踏まえ、有為なIT人材育成のために、本校と県立太田第一高等学校との連携調印式が同校会議室で1月22日(木)に開催されました。

県立太田第一高等学校の谷津勉校長からは「探求を軸とした創造的な学びの環境整備を進めており、この連携はとても有意義」と期待を膨らませていました。

酒井雄一校長は「高大連携で、次代を担う有為なデジタル人材を共に育成したい」と笑顔で話されていました。

4月から連携事業がスタートします。

2 熱意伝わる企業説明会



IT企業研究会の様子

1月8日(木)・15日(木)、1年生を対象としたIT企業研究会(主催:茨城県情報サービス産業協会)が開催され、2日間で24社が参加しました。

企業からは、事業内容から福利厚生まで詳しく説明がありました。学生からは「興味の持てる業務内容が多かった」「AIを用いた事業も増えているが、人を大切にする会社だと思った」「福利厚生もしっかりしており、社員同士の仲の良さが良く分かった」「説明者の熱意が伝わりました」との声がありました。

茨城県立産業技術短期大学校

URL <http://www.ibaraki-it.ac.jp/>

E-mail:kyoumu@ibaraki-it.ac.jp

〒311-1131

茨城県水戸市下大野町6342

電話029-269-5500

3 記事トレ』紹介

本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

〈記事トレ〉茨城新聞(2025年12月23日)

発信活動ビジネス化

被災地から伝える(能登復興ツアーや企画)

●竹内 結さん(日本航高卒)

◇要約: 加藤愛梨さんは災害復興において何かできることはないかと能登地震の被災地の情報発信を始めた。

信頼関係を築いたうえでSNS等で発信しツアーや被災地での人材育成、学生のインターを計画するなど貢献している。

◇感想: 自ら災害や被災地に目を向けて行動に移そうとする行動力は見習うべきだと思った。

また、ただボランティアだけでなくそれを継続できるようビジネスにしている。人々の協力を求めることも大切だと思った。

●大森鋼刃さん(太田一高卒)

◇感想: 被災地からの発信をビジネス化することで、継続的に防災意識を広められる点が印象的だった。

善意だけに頼らず、仕組みとして成り立たせることが重要だと思った。被災者の思いを尊重し、伝え方には配慮が必要だと思った。

●水地穂吏さん(常磐大高卒)

◇感想: 実際に災害を経験した方々の話を聞くことはこれからの中学生にとって貴重な経験だと考える。

被災地では何が起って、何が大変だったのかを聞くことで課題解決に向けた学びになる。防災という領域を発展させることができると思う。

●青山 優さん(水戸三高卒)

◇感想: 被災地に出向くことは簡単ではなく、被災者に寄り添い、支援を促してもらえるような情報発信までやり遂げる加藤愛梨さんを、本当に尊敬する。

何事にも初めの一歩が重要であり、実際に行動する大切さに気付かされた。

●相田泰我さん(水戸商高卒)

◇感想: 被災地の現状をYoutubeで発信しビジネス化する視点に感銘を受けた。情報発信を収益化し持続可能にすることは重要な感じ。プラットフォーム活用を通じ防災領域を発展させる挑戦を私も学びたいと思った。

